

たるものは回鶻の軍なりしこと争ふ可らず、されば唐の之を待つこと極めて厚く、前に引きたるが如く磨延賧の妻の妹にして承家に嫁せしものを封じて毗伽公主と爲し、次で葉護の來援するに及びては、公主を以て王妃と爲し、廣平王俶に命じ、葉護と約して兄弟たらしめ、郭子儀は葉護及び其の部下の大首領と扶風に會し、犒飲三日に及びしが如き、偏に其の歡心を買ひ、援助を得んとし、汲々として力めたるを見る、かくて葉護入援の後、唐の軍容大に揚り、元帥廣平王の下に、此の月長安を復し、更に進みて十月洛陽を復するに至れり。

唐が其の社稷を保つを得しは、此の如く主として回鶻の力に依りしを以て、之より後は自然の結果として回鶻は唐を輕侮し、漸く横暴を擅にし、洛陽を復するや「大掠東都三日、姦人導之府庫窮殫、廣平王欲止不可、而耆老以繪綿萬疋賂回紇、止不剽」<sup>〔七三〕</sup>とするが如きに至りしが、唐は固より之を如何ともする能はず、葉護の長安に還るや、

肅宗は親ら宴を設けて之を殿上に延き、厚く財物を贈りて其の勞を慰め、且つ司空の位に進め、封義王の爵を給ひ、以後每載絹二萬疋を遺るを約するに至れり。<sup>〔七四〕</sup> 翌乾元元年五月には回鶻の使多亥阿波等八十人來朝し、六月紫宸

殿前に宴を賜ひしが、此の使は冊府元龜和親篇によれば、回鶻可汗の爲に唐の公主の降嫁を請ふを目的としたるものなりき、當時回鶻の勢力益々盛にして、古來北方に於て諸部族を統一し、南支那を威壓したるものの例に倣はんとしたるものなるを知るべし、而して唐は此の年七月遂に肅宗の幼女寧國公主を降し、使を遣して回鶻に送るに至りしが、此の時に於る肅宗の詔の中に「且骨肉之愛、人情所鍾、離遠之懷、天屬尤切、況將適異域、寧忘軫念、但上緣社稷、下爲黎元、遂抑流慈、爲國大計」と曰ひ、又肅宗が公主を送りて咸陽礪門驛に至るや「公主泣而言曰、國家事重、死且無恨、上流涕而還」と記せるを見れば、當時回鶻が唐に對して如何に強大なる勢力を有したりしか